

学習ストラテジーの研究：学習者の習熟度と 学習スタイルとの関連性の考察 － EFL 女子大学生を対象として－

岩 崎 明 子

動機：この研究の目的は、学習者がどのような学習ストラテジーを用いて、言語学習を効果的にするかを調べた量的研究と並行し、学習者の持つスタイル傾向や学習者の習熟度と使用する学習ストラテジーとの関連性についても調査することである。[また、この調査とその分析結果を学習者側にフィードバックすることで学習者の意欲（学習動機）やその後の学習効果（実際の熟達度の向上）にどのような影響を及ぼすか追跡調査を試みることは、今後の課題でもある。]

調査方法：学習ストラテジーの調査にあたり使用したのは、各国で使用頻度が高く、信頼性も高い SILL (Strategy Inventory for Language Learning) 質問紙法である。SILL (Version5.1) は、Rebecca Oxford によって開発された学習者のストラテジー使用傾向を測るための 80 項目からなる質問紙である。筆者が使用した SILL (Version7.0) は、同研究者によって特別に EFL/ESL 環境の学習者向きに改訂された、50 項目の質問紙である。一方、学習者のスタイルの調査にあたり使用したのは、R.Oxford および Andrew Cohen らによって研究開発された Learning Style Survey という若い学習者向けの質問紙である。これによって学習者のスタイルの優位性を知覚傾向（視覚、聴覚、触覚）と性格傾向（内向、外向、閉鎖、開放、包括、詳細）として判別できるものである。学習スタイルの質問票は多種多様なものが開発されているが、今回はストラテジーとの関連研究の為、あえて同一研究者の含まれたものを選択した。習熟度は、学年始めに大学で一斉に実施される Pre-Toefl スコア（聴解力、語彙・文法、読解力）を参照する。

調査対象：英語英文学を専門とする女子大学 2、3 年生 96 名

調査と分析過程：学習ストラテジー質問紙配布回収は2004年6月、学習スタイル質問紙配布回収は同年9月に行った。集計結果を統計処理するために、SPSS（統計処理用PCソフトプログラム）を使用する。分析法としては、ANOVA、信頼度分析（クロンバック・アルファ法）、T-検定、因子分析（バリマックス法）、相関分析を行う。

研究目的：

- 1) EFL女子大学生は、どのような学習ストラテジー使用傾向の特徴があるのか。また習熟度によってどのように格差が生ずるのか。
- 2) 同学生は、どのような学習スタイル傾向を持つか。それも習熟度によって傾向に変化が生ずるだろうか。
- 3) 学習スタイル傾向は、学習ストラテジー使用とどのような関係があるのか。

以下の論文では、(I) 先行研究を基に、学習ストラテジーの定義(1-1)とその分類法(1-2)、学習スタイル(1-3)とその分類過程(1-4)、習熟度に関する研究(1-5)について説明を加えた後、今回の研究目的にそった(II) 調査結果および(III) その考察と(IV) 今後の課題について述べていく。

I. 先行研究

1-1 学習ストラテジーとは

学習ストラテジーとは、「情報の習得、蓄積、使用を促進するために学習者によって使用される一連の過程または段階」(Densreau,1985)であり、また「簡単或いは複雑な教材を学習するために、学習者の取る意図的、認知的、情意的な行動」(O'Malley & Chamot,1990)である。Oxford (1990) は、さらに「学習をより容易に、より敏速に、より楽しく、より自主的に、より効果的に、より新しい状況に転化しやすくする (p8)」ために学習者によって取られる、具体的な行動であるとし、コミュニケーション能力に本質的必要となる自主的積極関与のための道具として、その重要性を表明する。また、Paige&Cohen (2002)

らは、「目標言語の理解と知識の促進を明確な目標とする学習者によって使用される、意識的、あるいは半意識的な考察と行動である。(p208)」と定義している。

1-2 学習ストラテジーの分類

学習ストラテジーの分類は、“よい言語学習者の研究”(Rubin:1975, Naiman et al.:1975, Oxford:1989) から始まったとされる。今回ストラテジー調査に使用された SILL の原型が Rubin (1981) と O'Malley and Chamot (1989-1990) らの研究から影響を受けているという Lee (2003) の考え方にそって学習ストラテジー分類の過程をたどってみる。

1) Rubin (1981) は、学習ストラテジーを大きく 2 つの機能に分類し、一つは直接的学習に関係するものとし、他方を間接的に学習に関係するものとし、2 つのストラテジーそれぞれに下位カテゴリーを次のように分類した。

- ・直接ストラテジー：明確化、照合、監視、記憶、推測、帰納的理論付け、演繹的理論付け、練習
- ・間接ストラテジー：練習機会の確保、コミュニケーション課題の利用

2) O'Malley and Chamot は、若い ESL 学習者の行動観察と実験リサーチ分析により、ストラテジーを以下の 3 つに分類した。

- ・メタ認知ストラテジー：言語活動の計画、監視、評価を通して学習を知り、制御するストラテジー
- ・認知ストラテジー：個々の学習課題に直接関与し、教材への操作、変容に関係するストラテジー
- ・社会/情意ストラテジー：主に学習者の相互コミュニケーションに関与するストラテジー

3) Oxford (1990) の考え方は、ストラテジーを大きく 2 つに分類し、それに属する 6 つのカテゴリーを柱とし、さらに詳細なデータ収集と分析によって、各カテゴリーに属する下位カテゴリーを考えた。

これらの明細項目を質問形式に直すことで質問紙票を作成し、彼女が学習ストラテジーの量的調査を容易にする方法を開拓したことに意義がある。(SILLの詳細項目については、添付資料参照)

• 直接ストラテジー

- A. 記憶ストラテジー：知的連鎖、活動利用、情報の長期記憶保持への援助、情報発信のための検索に使われるストラテジー。
 - B. 認知ストラテジー：たとえば分析、理論付けのように、内的知的形態を形成、修正し、目標言語での受信と発信のために利用するストラテジー。
 - C. 補償ストラテジー：たとえば聴解中または読解中の未知語を推測し、会話や作文で難易度の高い語をやさしい言葉に置き換えるなど、言語知識の格差を克服するときに必要とされるストラテジー。
- 間接ストラテジー
- D. メタ認知ストラテジー：計画、調整、集中、自己学習過程への評価を通して執行制御を行使するのを助けるストラテジー。
 - E. 情意ストラテジー：言語学習に伴う感情、動機、態度を制御できるストラテジー。
 - F. 社会ストラテジー：会話の中で、質問、他者との協力求めるなど、他者との相互交流を円滑にするストラテジー。

1-3 学習スタイルとは

学習スタイルには、種々の定義があり教育心理の分野で議論されてきた。(Reid:1987, Oxford:1990, Wallace and Oxford:1992, Oxford and Ehrman:1993) また、Reidによれば、文化によって学習者のスタイル傾向は、変化することが証明されている。たとえばアジア圏の学習者には、視覚スタイルが多いとか、ラテンアメリカの人やメキシコ人学習者は、聴覚スタイルを好むといった内容である (Reid:1995) 学習スタイル調査方法の開発の主目的は、学生と教師のスタイルの不一致が引き起こす様々な不幸な結果(例、学生の勉強意欲の喪失、教師の自信喪失など)を避けると同時に、学習者が自分のスタイルを認識するこ

とで、より自立した学習者を育てることであったといえる（Filder and Henriques:1995）。

学習者の傾向を述べる“枠組み”として頻繁に使用されてきたのが、1940年代に開発された¹“MBTI”（Myers-Briggs Type Indicator）で学習スタイルも含む性格タイプの調査に用いられた。一方、より学習目的に焦点をあてたFelder and Soloman（1989）が考案した²“Index of Learning Style”は、工学部や心理学分野の学習者のため開発されたものである。これらの学習スタイル調査法は、それぞれユング心理学の性格分析の理論から応用されたもので、しかしFelderらの“枠組み”は、性格タイプだけではなく知覚タイプにも言及していることが、注目できる。

Reid（1987）による第二言語学習者学習スタイル傾向の研究を経て、Oxford and Ehrman（1990）は、言語学習者のスタイルを知覚、性格タイプを含む9つに区切った“枠組み”として表明する。それは、SAS（Style Analysis Survey）（Oxford,1993）として量的学習スタイル調査質問紙となって、種々の学習スタイル研究の手段に適用されている。Oxford（2001）は、学習スタイルは、“白一黒”、“ある一なし”というような対極的なものではなく、一般に連続していて、多面的に関わりがあると説明する。たとえば、ある学習者は、外向よりむしろ内向タイプであり、同時に視覚的、聴覚的だが、実践的ではないというように表現できる。またOxford（2003b）は、学習スタイルの定義を「学習者が新しい言語を獲得する時や、どのような教科に対しても同様に学習時に使用する総合的方法である」としている。

1-4 学習スタイルの分類

1) Oxford（2001）の分類

① 3つの知覚タイプ

- ・ 視覚スタイル：読みや視覚刺激から情報を得る
- ・ 聴覚スタイル：視覚情報なしでよい。講義、会話、ロールプレイの相互交流や口述説明を好む。

- ・ **実践（運動・触覚）スタイル**：多くの活動を好み、触れることの出来る対象としてコラージュやカードを好む。

② 4組の性格タイプ

- ・ **外向スタイル v s 内向スタイル**：

外向：外界からエネルギーを得て、人々との交流を要求し、たくさんの友人を持つ。

内向：自己の内的世界からエネルギーを得て、孤独を要求し、少ない友人を持つ。

- ・ **直観スタイル v s 具体連続スタイル**：

直観：抽象的、未来志向的、大まかで、順番に関係なく考察する。

具体連続：理論よりも事実志向、指導者からの明確な指示や指導を好む。

- ・ **思考スタイル v s 感情スタイル**：

思考：他者と調和することや他者の感情よりも真実を優先する。

感情：他者に価値を置き、言葉と行動を通じて共感し、同情する。

- ・ **閉鎖志向（判定）スタイル v s 開放（知覚）志向スタイル**

閉鎖志向：即断即決を好み、明確さと期限のある具体的課題を好む真面目で努力家。

開放志向：真面目な方法よりゲーム等を通して学習を好む。期限を嫌う。

③ 一般的願望度タイプ

- ・ **包括・全体スタイル v s 分析スタイル**：

包括：メインアイデアに注目し、全体像を見る、文法等の分析を避ける。社交やコミュニケーション活動を好む。

分析：文法的詳細にこだわる傾向があり、自由なコミュニケーション活動は不得手。課題は几帳面にこなし、未知の単語を文脈から予想するような冒険は避けたい。

2) Cohen and Chi (2002) のスタイル分類

- ①視覚、聴覚、実践（身体的知覚の使用に関する）20
- ②外向、内向（学習状況での自己の表し方）12
- ③無作為一直観、具体一連続（可能性の対処の仕方）12
- ④閉鎖志向、開放（不明確さと期限の対処の仕方）8
- ⑤包括、詳細（情報の受信の仕方）10
- ⑥総合的、分析的（情報処理の仕方）10
- ⑦鋭敏、平衡（物事を記憶に収容する仕方）6
- ⑧演繹的、帰納的（言語規則の対処の仕方）6
- ⑨領域独立、領域依存（多様な情報に対処する仕方）6
- ⑩衝動的、内省（応答の仕方）6
- ⑪比喩的、事実忠実（現実の受け取り方）4

* 各項目の最後の数に質問数を示す

Cohen らは、様々なスタイルの分類の中で、特に言語学習過程を理解するために有用として上記の分類を考え“Learning Style Survey”という質問紙を作成した。その基礎となったのが Oxford の考案した“Style Analysis Survey”（1993）（Reid:1995:208-215）と Ehrman and Leaver が考案した“E&L Questionnaire”（2001）である。

Cohen らは、これらの項目が細目過ぎるため、対象者に応じて項目と質問数を減らした改訂版を作っている。たとえば、一般学習者向け（Cohen:2002）には、項目および質問数を [① 9、② 6、③ 6、④ 6、⑤ 6、⑥ 6] に改定し、また、若い学習者向け（Cohen and Oxford:2001）には、項目および質問数を [① 23、② 10、④ 8、⑤ 10] に改定し、質問もより対象者に適合する内容に変化させている。今回のスタイル調査には、一般的な学習者傾向を知る目的と、ストラテジーとの比較分析を容易にする目的で、項目数の少ない、“若い学習者向け”に開発された質問紙を利用した。

1-5 学習者のストラテジー使用傾向と習熟度

様々な研究者によって、学年差や習熟度の差によって、学習ストラテジー使用頻度や課題に対するストラテジー使用の種類に差があることが報告されている。

Bialystok (1979) は、カナダの高校生対象に調査を行い、12年生が10年生よりも（練習、監視、推論）などのストラテジーを多用したとの報告がある。

O'Malley と共同研究者 (1985) は、ESL 学生を対象に調査したところ、中級学習者が初級学習者よりもメタ認知ストラテジーの使用が多いことが分かった。

Chamot and Kupper (1989) によるスペイン人学習者の研究では、習熟度の高いグループにストラテジー使用頻度が高く、種類も増えたという結果だった。

日本でも、**EFL** 学生を対象にした、**Hayashi** (1990) の結果は、**Chamot** らと近似しているし、**Takeuchi** (1991) の行った実験では、聴解の課題に対し、習熟度の高い **EFL** 女子大生が（英語を使用する機会の探求、英語で相互交流を続ける、難しい課題を練習する）などのストラテジーを使用した報告がなされている。聴解の課題では、**Ozeki** (2000) もほぼ同様の結果をえている。

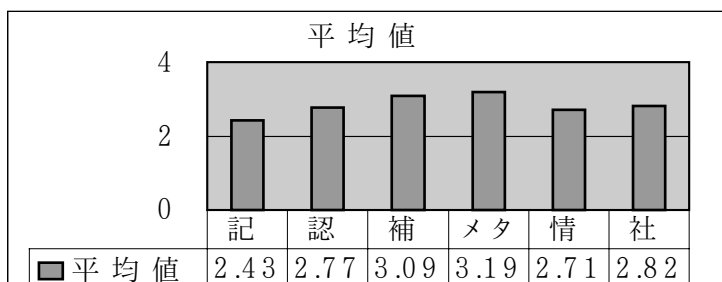
また、学年差の研究では、**Arai** (1999) が学習者の口述レポートによって、学年差のある被験者のうち上の学年に属する学生が、より多様のストラテジーを使用し、内容をより詳細に説明できたことを証明している。

II. 研究結果

2-1 学習ストラテジー全体の傾向

表 1. 及びグラフ 1 Oxford の 6 つのストラテジー分類

	平均値	標準偏差	順位	信頼度
記憶	2.43	0.52	*6	0.579
認知	2.77	0.56	4	0.775
補償	3.09	0.63	2	0.589
メタ認知	3.19	0.72	*1	0.863
情意	2.71	0.69	5	0.626
社会	2.82	0.78	3	0.777



英語英文学科女子大学生の使用する学習ストラテジーの平均値は、表 1 及びグラフ 1 に示した。平均値は全て 5 段階表示の 2.4 から 3.2 の間にあり、Oxford (1990) の評価では、中度のストラテジー使用と測定される。表が示すように、メタ認知の使用頻度が一番高く、ついで補償、社会、認知、情意、記憶ストラテジーの順番となっている。同様の研究を、多くの研究者が行っているが、最近発表された Oosuga (2005) の、国際学部、人間科学部学生 (男女 81 名) の研究結果では、補償が一番高く、メタ認知、社会、認知、記憶で情意が最後となっている。他の研究からも、大学生以上の被験者は、メタ認知や補償ストラテジーの使用頻度が高いという報告がなされているので、これらの 2 つの

ストラテジーは、言語学習をする大学生にとって、必要なストラテジーであると言える。

2-1-2 学習ストラテジーの相関

表 2. 学習ストラテジー相互の相関分析

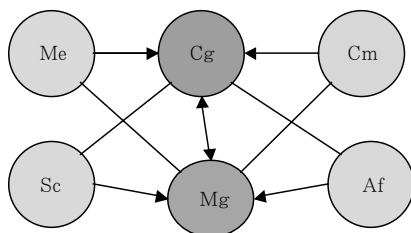
分類	記憶	認知	補償	メタ認知	情意	社会
記憶 (Me)	1					
認知 (Cg)	0.62**	1				
補償 (Cm)	0.31**	0.49**	1			
メタ認知 (Mg)	0.41**	0.68**	0.38**	1		
情意 (Af)	0.39**	0.51**	0.38**	0.58**	1	
社会 (Sc)	0.25*	0.56**	0.31**	0.595**	0.43**	1

(** $p \leq 0.01$, 1% 水準で有意差)

(* $p \leq 0.05$, 5% 水準で有意差)

表 2 は、学習ストラテジーの相互関係の分析結果を表に表したものである。全体の相関度は、中庸であるが、その内で最も強い相関を示したのが、メタ認知と認知ストラテジーの組み合わせである。全体的に見て、メタ認知と認知ストラテジーは他のストラテジーとも相関しており、これは Oxford (1990) が“コアストラテジー”と呼んだことを裏付ける結果となった。図 1 は、この仕組みを図式化したものである。

図 1



線は相関関係を示し、矢印▶は、相関値の一番大きいストラテジーを示している。

2-1-3 習熟度別ストラテジー使用

表3. 習熟度別学習ストラテジー使用比較

	上位 (N=49) 順位			下位 (N=47) 順位			有意差
	平均値	標準偏差		平均値	標準偏差		
記憶	2.42	0.53	*6	2.42	0.51	*6	NS
認知	2.84	0.58	4	2.7	0.55	3	NS
補償	3.12	0.67	2	3.06	0.58	*1	NS
メタ認知	3.39	0.83	*1	2.98	0.72	2	0.01**
情意	2.73	0.71	5	2.68	0.67	4	NS
社会	2.97	0.82	3	2.67	0.7	5	NS(p<0.06)

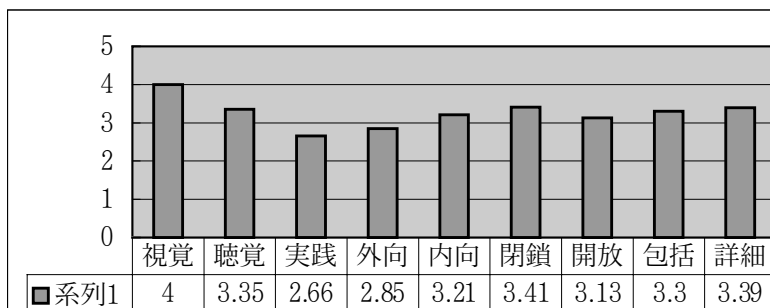
**p ≤ 0.01

表3は、習熟度別にストラテジー使用に格差があるかどうかを調べたものである。まず、習熟度が高いグループは低いグループに比べ、全体的に見てストラテジーの使用頻度の平均値が高い。特にメタ認知は、習熟度別で有意差が明確に認められた。社会もやや有意差が現れた。この2つのストラテジー使用の差が、何らかの形で学習者の習熟度の差と関係あると考えられる。さらに、詳細なメタ認知ストラテジーの下位カテゴリーを調べると、“注意力”、“計画性”、“目標言語の積極使用”、“積極的な自己評価”などに大きな違いがあり、社会ストラテジーでは、“間違い修正の請求”に差異が出た。(Iwasaki,2005:19)

2-2-1 学習スタイル全体の傾向

表4. グラフ2 学習スタイル全体の傾向 (N=96)

スタイル	平均値	標準偏差
視覚 (V)	4	0.49
聴覚 (A)	3.35	0.59
実践 (K)	2.66	0.51
外向 (E)	2.85	0.75
内向 (I)	3.21	0.695
閉鎖 (H)	3.41	0.81
開放 (O)	3.13	0.86
包括 (G)	3.3	0.63
詳細 (P)	3.39	0.54



表とグラフに示された9つの学習者スタイル傾向は、大きく分けると“知覚タイプ”の視覚、聴覚、実践スタイルと、“性格タイプ”の外向・内向、閉鎖・開放、包括・分析に分類される。ことに“性格タイプ”は、対極する2つのスタイルが組み合わされている。

まず、“性格タイプ”では、今回の被験者は、視覚スタイルが、聴覚、実践に比べて多かった。先の大須賀(2005)の報告では、やはり視覚が一番高く、ついで実践、聴覚となっている。他の、先行研究ではアジアの学生達は視覚タイプが多いという報告とも一致している。一方、聴覚、実践タイプの傾向の差は、学部・学科の学問傾向と大きな関係が

あるように思われる。今回の被験者は、目標言語を専門課程としている学生なので、性格上聴覚タイプの学生が実践よりも多かったのではないかと思われる。

“性格タイプ”では、外向より内向タイプが多く、開放よりも閉鎖タイプが多い。しかし、包括と分析ではほとんど差が見られなかった。個々のデータを見ると、被験者の中で、この包括と分析の特徴を同時に選択しているケースがかなり見られたので、この2つのスタイルは、他の“性格タイプ”に比較すると、対極性が少ないと理解できる。

2-2-2 学習スタイルの相関

表5. 学習スタイルの相関

	Visu.	Audi.	Kine.	Extr	Intr.	Clos.	Open.	Glob.	Part.
視覚 (V)	1								
聴覚 (A)	.205* 0.045	1							
実践 (K)		.256* 0.012	1						
外向 (E)				1					
内向 (I)			(-.262)* 0.01		1				
閉鎖 (C)	.267** 0.009		(-.225)* 0.028			1			
開放 (O)							1		
包括 (G)			.321** 0.001				.322** 0.001	1	
詳細 (P)		.299** 0.003							1

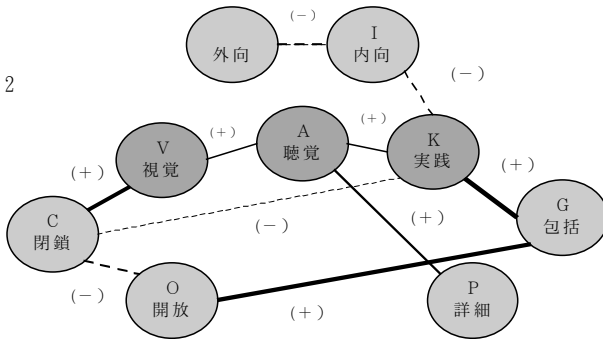
Note: Pearson's Coefficient Correlation** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$
(Significance Probability)

学習スタイル相互関係は、上の表に現れた通りである。マイナスの相関値を示した場合、その2つのスタイルは対極する性格を持つことを表す。たとえば、内向・外向スタイルの相関値(-.506)という結果か

ら、一人の学習者はこの2つのスタイルを同時に持つ確立が非常に低いことを示している。同様に、開放・閉鎖（ $-.508$ ）という対極する組み合わせの他にも実践・内向（ $-.262$ ）、実践・開放（ $-.225$ ）、なども両立しないことが分かる。

一方プラスの相関値を示した、包括・実践、包括・開放、聴覚・実践、聴覚・分析、視覚・聴覚、視覚・閉鎖スタイルの組み合わせは、その両立の可能性を示していると考えられる。これらの相互関係を図にしてみた。この図からは、閉鎖スタイルの学習者は、視覚、聴覚、分析タイプと関連するスタイル傾向を持ち、開放スタイルの学習者は、包括、実践、聴覚タイプと関連するスタイル傾向を持つのではないかを予想ができる。今回の結果からは、外向と内向スタイルが他のスタイルとどのように関連するか明確な証拠が見られなかった。

図 2



2-2-3 習熟度別学習スタイル傾向

表6. 習熟度別学習スタイル傾向格差

スタイル	下位 カテゴリ	有意差	上位 (N=49)		下位 (N=47)	
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
聴覚 (A)	11	**0.006	3.22		2.64	
	14	*0.049	2.98		2.51	
実践 (K)	15	*0.056	2.76		3.19	
	18	*0.032	2		1.6	
	19	*0.036	1.67		2.17	
	21	*0.031	3.06		3.6	
閉鎖 (C)	2	*0.025	3.51		2.91	

(7 items)

** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$

表6から分かるように、習熟度別に有意差が明確に出たのは、9つのスタイルの内、聴覚、実践、閉鎖においてだけであった。下位カテゴリーで見ると、聴覚では“視覚的補助がなくても聴覚理解できる”や、“音声受信を画像より優先する”といった音声情報を通して事物を把握し、理解ができる学習者の姿が浮かび上がる。また、閉鎖では、“資料等の整理をよくする”という項目は、計画性、組織能力にすぐれるという性質も習熟度の高い学習者に予想できるだろう。一方、実践スタイルの傾向が多いのが、習熟度の低い学習者であった点も注目すべきである。たとえば、“説明を聞く前に実行する”、“長時間じっと座るのは苦手”、“常に何かに触れながら、考え、集中する”という項目には、体験や自らの行動を通して学ぶ傾向のある学習者の姿を思い浮かべることができる。言語学習者が、低年齢や、学習の初期段階である場合、集中力・注意力を高めるために、動作活動のある“楽しい”体験的学習活動を多く採用することを教師はまず配慮することを思えば、大学生のレベルでも実践スタイルを好む学習者の動機を上げるために、アプローチのやり方を考える必要のあることが分かる。同時に、今回習熟度を測る枠は、座ってする試験であることを考慮すれば、実践タイプの学生には不

利であるように思う。実際の言語運用能力を測定できるように、筆記タイプだけではなく言語能力テストが考案されることが必要であると思われる。

2-3 学習ストラテジーと学習スタイルの相関

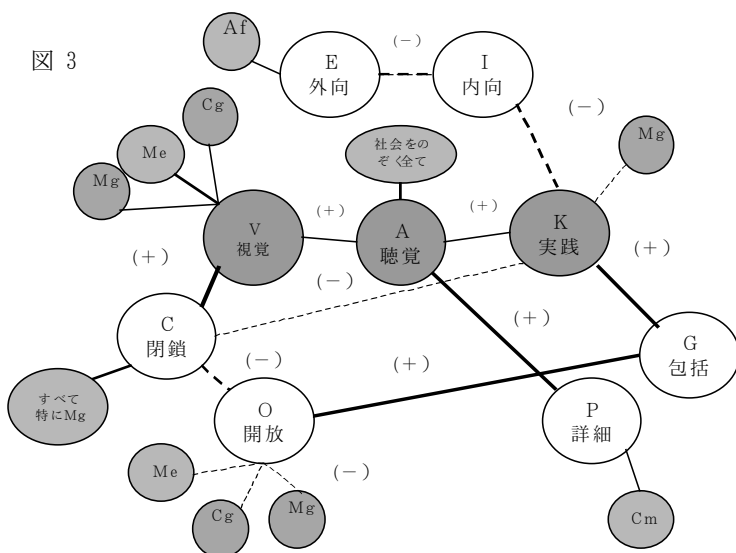
表7. 学習ストラテジーと学習スタイルの相関

	記憶 (Me)	認知 (Cg)	補償 (Cm)	メタ認知 (Mg)	情意 (Af)	社会 (Sc)
視覚 (V)	.328** 0.001	.258* 0.011222* 0.029
聴覚 (A)	.252** 0.013	.394** 0	.329** 0.001	.225** 0.028	.221** 0.03	
実践 (K)	(-.228*) 0.026
外向 (E)214* 0.037	...
内向 (I)
閉鎖 (C)	.259* 0.011	.318** 0.002	0.208* 0.042	.387** 0	.233* 0.022	.235* 0.021
開放 (O)	(-.201*) 0.05	(-.214*) 0.036	...	(-.207*) 0.043
包括 (G)
詳細 (P)331** 0.001

学習ストラテジーとは、学習者が目標言語の習得・使用のために、意識的に行う知的・身体的行動であるとすれば、学習スタイルは、学習者の生得的性格・無意識的領域と深いかわりをもつといわれる。しかし、筆者が各項目を比較するうちに2者間には、共通した領域があり、それぞれのスタイル傾向に適合するストラテジーを学習者は、自ずと選択しているのではないかと予想できた。たとえば、外向スタイルの学生は、グループ学習やネイティブスピーカーと積極的にかかわるような、ストラテジーを頻繁に使用するか、また、逆に内向的スタイルの学生は、独立独歩で学ぶ機会を好み、段階的に着実に勉強を積み重ねていく方法を好むというように。しかし、今回の分析結果は、初期の予想とは

少し違う結果となった。

今回の被験者の全体的な特徴として、学習スタイルの中で特にストラテジー使用と強いかかわりがあるものは、聴覚と閉鎖スタイルであることが分かった。同時に、閉鎖とは対極的性格を持つ開放スタイルの学習者は、特定のストラテジー（記憶、認知、メタ認知）の使用傾向が弱いことが数値から読み取れる。視覚スタイルは、記憶、認知、メタ認知と関係があり、外向と情意、分析と補償の間には正の相関が見られ、実践とメタ認知の間には、負の相関があった。それを図式化すると以下のような関係図が考えられる。



III. まとめと考察

学習ストラテジーの調査：

EFL 女子大生が特に使用していた学習ストラテジーは、メタ認知と補償ストラテジーであった。この結果は、SILL を利用したアジア他国の EFL 学生のストラテジー使用傾向調査と近似している。一方、記憶

ストラテジーの使用頻度が一番低い平均値を示したのは、意外な結果であった。実際多くの日本人学習者は、単語や文章を記憶するやり方で学習しているからである。理由として考えられるのは、他の研究者も指摘している通り、記憶ストラテジーに含まれる項目が日本の EFL 学習者の実情に沿った内容があまりなかったという予想ができる。ストラテジーの使用は、相関性分析によって、互いに関連しあっていることが証明されたが、特にメタ認知と認知ストラテジーは、他のストラテジーを連携させる“中心的ストラテジー”となっていることが予想できた。

学習ストラテジー使用は、習熟度に左右されるかという疑問に対しては、習熟度によってわずかな格差が見られた。習熟度の高い学習者は、全体的にストラテジー使用頻度が、習熟度の低い学習者に比べて多いと考えられる。しかし実際に有意差が多少出たのは、メタ認知と社会ストラテジーにおいてだった。これらのストラテジーの下位カテゴリーを見ると、“良い学習者”の使用する学習ストラテジーの条件が少し浮かびあがってくる。一方で、他のストラテジータイプに有意差がそれほど出なかった理由として考えられるのは、SILL 質問紙では、使用頻度の尺度はあくまで被験者の主観的判断にゆだねられているので、個人差が生じる可能性があること。また、特に習熟度が高い学習者になると、意識的に使用するストラテジーが減ると考えられるので、データ上の数字がそれほど高くない可能性があることなどがあげられる。他の研究者がいうように、この不足を補うためにも量的研究と並行した質的研究の必要性を感じた。

学習スタイルの調査：

今回の調査では、EFL 女子大生の持つスタイルの傾向は全体的に中庸であったが、知覚タイプでは、視覚スタイル嗜好が聴覚や実践よりも多かった。性格タイプでは、内向型嗜好が外向型より多く、閉鎖型嗜好が開放型より多かった。一方、包括型と詳細型においてほとんど同値となったのは、この2つのスタイルが予想していたほど対極的性格を持たず、学習者がそれらを同時に持つ可能性を示唆している。他研究者の結

果とつき合わせてみると、学習者の国民性だけではなく、専攻する学問の種類によっても、学習スタイル傾向の違いができると考えられる。学習スタイルの相関図を見れば、閉鎖、視覚、聴覚、分析に関連性が見られ、他方開放、包括、実践、聴覚にも同様の連携が見られるように思う。このことは、一つのスタイル傾向がそれと連携する他のスタイルの種類も決定する要素を含んでいることを示していると考えられる。

習熟度と学習スタイルの関連について言えば、大きく目立った格差というのは見られなかったが、聴覚スタイルと閉鎖スタイルを嗜好する学習者が習熟度の高いグループに多かった一方で、実践スタイルを嗜好する学習者が習熟度の低いグループに多かった。聴覚スタイル嗜好者が習熟度の高いグループに多かった理由として考えられるのは、視覚情報や体験に頼らずとも音声情報だけで物事を理解するためには、目標言語で情報を理解できる能力が高ければ高いほどよいということは容易に予想できるが、逆に聴覚スタイル傾向がある学習者は、よい学習者になる可能性が高いといえるかどうかは、他の学習スタイルとの兼ね合いを詳細に調べて見なければ分からないだろう。一方、実践スタイルと習熟度の関係を考えるなら、学習者の習熟度が低いために実践スタイルを学習段階として必要とするのか、或いは、学習者のスタイル嗜好が実践的であるため、Pre-Toefl テストのような静的計測方法で習熟度を決定する時に、よい成果を出しきれないのか見極める必要があるだろう。いずれにしても、知覚タイプのスタイルに習熟度の差が見つかったということは、これらのスタイルは学習者に固定的なものではなく、効果的方法によってこれらのスタイル使用を制御することで学習効果に結びつく可能性も考えられる。

学習ストラテジーと学習スタイルの関係性：

今回の被験者の特徴として、学習スタイルの中で非常に学習ストラテジー使用と関係があるのが、聴覚および閉鎖スタイルであることが分かった。先の Oosuga (2005) の研究では、学生被験者の分析結果で、視覚および閉鎖スタイルが、全てのストラテジーと相関があったことが

報告されている。筆者の研究 (Iwasaki,2005) では、聴覚スタイルのほうが視覚よりも学習ストラテジーとの関係が強調される結果となった。後日の研究分析で、被験者のうち習熟度の低いグループにおけるスタイル・ストラテジーの相関を調べたところ視覚と閉鎖スタイルが主なストラテジー使用と関連することがわかった。大須賀の研究では、被験者の習熟度について触れていないため、ここで単純な結論を出すことは出来ないと思うが、可能性として考えられるのは、学習者の習熟度によって好まれる学習スタイルというのがあり、そのスタイルに応じた学習ストラテジーを学習者は選択しているのではないかという予想である。

6. 今後の課題

Oxford の学習ストラテジー質問紙の内容を参考にしながら、日本の EFL 学習者の現状にあった質問紙を製作するためにも、筆記法、インタビュー法、などを通して被験者からより質的に詳しいデータを取り、質問紙に加えていく必要があると感じる。

今回は、詳しい分析が出来なかったが、Pre-Toefl の中でタスクの違い (リスニング、語彙・文法、リーディング) によって学習者は違ったストラテジーを使い分けている可能性が分析中に見られたので、今後は実際のタスクを通して学習者がどのようなストラテジーを使用するかについて追跡調査を行いたい。

また、学習スタイルの調査項目にさらに詳細なスタイルの特徴を加え、学習者のストラテジー使用との相互作用について研究をしていきたい。さらに、この調査とその分析結果を学習者側にフィードバックすることで学習者の意欲 (学習動機) やその後の学習効果 (実際の熟達度の向上) にどのような影響を及ぼすか追跡調査を試みることは、今後の課題でもある。

注釈：

1. MBTI の説明

¹ C.G. ユングの精神分析型理論に基づく性格質問紙。原型では、ユングのタイプ理論は人間を、①外向－内向、②知覚－直感、③思考－感情の3つに分類した。後に、Isabel Briggs-Myers が新しく④判断－認知を加えた。最終的に、この4つの対極的領域の組み合わせで16種の性格タイプを、例えばISTJ（内向、知覚、思考、判断）やENFP（外向、直感、感情、認知）というように規定するようになった。この目的は、性格の分かりやすい理論を実際的で人々の生活に有用にすることである。領域①は、人に対するエネルギー表現の源とその方向性、②は情報受領のやり方、③は情報処理の仕方、④持っている情報の広め方である。

2. Index of Learning Style の説明

² ノースカロライナ州立大学で R.M. Felder と B.A. Soloman によって開発されたもので、質問紙は44対の質問で構成されている（質問には、必ず(a)又は(b)で回答するようになっている）全ての点数は、4つの対極的領域に分けられ、領域毎に、対極線上の目盛りに現される。4つの領域は、行動スタイル－思考スタイル、知覚スタイル－直感スタイル、視覚スタイル－口述スタイル、連続スタイル－包括スタイルで、他にFelderは、帰納的スタイル－演繹的スタイルを5番目に加えた研究もある（1988、1993）。

参考文献

Arai, Kiwa. 荒井貴和 (2000). Language Learners' Awareness of Learning Strategies- A Survey on Japanese College Students Learning English-. (学習ストラテジーに対する学習者の意識－英語を学習している日本人大学生を対象とした調査－) *Bulletin of Toyo Gakuen University*, No.8, 2000. 57-66.

- Bialystok, E. (1979). The role of conscious strategies in second language proficiency. *The Canadian Modern Language Review*, 35, 372-394.
- Chamot, A.U. & Kupper. L. (1989). Learning strategies in foreign language instruction. *Foreign Language Annals*, 22, 13-24. Cited in Takeuchi (2001).
- Cohen, A. D. & Dörnyei, Z. (2002). Focus on the Language Learner: Motivation, Styles and Strategies. Schmitt, Norbert (ed.). *An Introduction to Applied Linguistics*, 170-190. London: Edward Arnold.
- Cohen, A. D. & Oxford, Rebecca L. (2001). *Learning Style Survey for Young Learners :Assessing your own Learning Styles*.
<http://www.carla.umn.edu/about/profiles/Cohen.html>
- Cohen, Andrew D., Oxford, R.L., & Chi, Julie C. *Learning Style Survey: Assessing Your Own Learning Styles*
<http://www.carla.umn.edu/about/profiles/Cohen.html>
- Dansereau, D. F. (1985). Learning strategy research. In Judith W. Segal, Susan F. Chipman and Robert Glaser (Eds.) , *Thinking and learning skills: Relating learning to basic research*, vol. 1. Hillsdale, NJ: Erlbaum. 209-240.
- Ehrman, M. & Oxford, R.L. (1989). Effects of sex differences, career choice, and psychological type on adult language learning strategies. *Modern Language Journal*, 73:1, 1-13.

- Ehrman, M. & Oxford, R.L. (1990). Adult Language Learning Styles and Strategies in an Intensive Training Setting. *The Modern Language Journal*, 74:3, 311-327.
- Felder, R.M. & Henriques, E.R. (1995). Learning and Teaching Styles in Foreign and Second Language Education. *Foreign Language Annals*, 28, No.1, 1995, 21-31.
- Geyer, P. (1995). *Quantifying Jung: The Origin and Development of the Myers-Briggs Type Indicator (r)*, MSc Thesis, University of Melbourne. www.petergeyer.com.au Page updated: 29 Jun 04
- Goh, C. & Kwah, P.F. (1997). Chinese ESL students' learning strategies: A look at frequency, proficiency and gender. *Hong Kong Journal of Applied Linguistics*, 2, 39-53. Cited in Bremner (2003).
- Hancock, Z. (2002). Heritage Spanish Speaker's Language Learning Strategies. *ERIC Digest*. Washington.D.C: ERIC Clearinghouse on Languages and Linguistics. <http://www.cal.org/resources/digest/0206hancock.html>.
- Hayashi, H. (1990). *On the Variety of Learning Strategy Use among ESL Learners*. Paper Read at the Rokko English Linguistics Circle Monthly Meeting in Kobe on September, 16, 1990. (Translation of the title was Takeuchi, O.) Cited in Takeuchi (1991).

Iwasaki, Akiko 岩崎明子 (2005). *The Relationship between Learning Style Preferences and the Use of Strategies of Japanese College Students: As Related to Proficiency Level*. Tokyo: A Thesis Presented to the Faculty of the Department of English Shirayuri College Graduate School

Kimura, Midori. 木村みどり (2001). *Interrelationship between core strategies and other strategies*. JASET Summer Seminar 2001.

Lee, Kyung Ok. (2003). The relationship of school year, sex and proficiency on the use of learning strategies in learning English of Korean junior high school students.
Asian EFL Journal, vol. September 2003.
http://www.asian-efl-journal.com/sept_03_sub4.htm

Naiman, N., Frohlich, M., Todesco, A. (1975). The good language learner. *TESOL Talk* 5, 58-75.

O'Malley, J. M., Chamot, A.U., and Kupper, L. (1989). Listening comprehension strategies in second language acquisition. *Applied Linguistics* 10 (4) , 418-437.

O'Malley, J. M., & Chamot, A.U. (1990). "*Learning strategies in second language acquisition*." Cambridge: Cambridge University Press.

O'Malley, J. M., Chamot, Anna U., Stewner-Manazanares, Gloria, Russo, Rocco P., and L. Kupper. (1985). Learning Strategy

Applications with Students of English as a Second Language.
TESOL Quarterly 19: 557-584.

Oosuga, Naoko 大須賀直子 (2005). 日本人文系大学生に見る学習スタイルとストラテジーの関係。第44回(2005年度) JACET全国大会発表

Ozeki, Naoko 尾関直子 (2000). *Listening strategy instruction for female EFL college students in Japan*. Tokyo: Macmillan Language House.

Oxford, R.L. & Ehrman, M.E. (1993). Second Language Research on Individual Differences. *Annual Review of Applied Linguistics*, 13: 188-205. Cited in Felder (1995).

Oxford, R.L. (1989). The Role of Styles and Strategies in Second Language. *ERIC Digest*. Washington D.C.: ERIC Clearinghouse on Language and Linguistics.

Oxford, R.L. (1990). *Language Learning Strategies- What Every Teacher Should Know*. Boston: Heinle & Heinle Publishers.

Oxford, R.L. (1993). *Style Analysis Survey*. Tuscaloosa, AL: Oxford Associates. Reprinted in J. Reid (ed.), (1995), Learning styles in the ESL/EFL classroom (208-215). Boston: Heinle & Heinle/Thomson International. Also
<http://www.ccet.ua.edu/nihongoweb/sas/survey.html>

Oxford, R.L. (2001). Language Learning Styles and Strategies. Unit

IV Focus on the Learner. *Teaching English as a Second or Foreign Language*. (3rd ed.) Celce-Murcia, M. (Ed.). USA: Heinle & Heinle/ Thomson Learning.

Oxford, R.L. (2003). *Language Learning Styles and Strategies: an Overview*. GALA2003. <http://www.education.umd.edu/EDCI/SecondLangEd/People/Faculty/Dr.%20Oxford/RebeccaOxford.htm>

Paige, R.M., Cohen, A.D., Lassegard, J., Chi, J.C., & Kappler, B.J. (2002). *Maximizing study abroad: A students' guide to strategies for language and culture learning and use*. Minneapolis, MN: Center for Advanced Research on Language Acquisition (CARLA).

Reid, J.M. (1987). The Learning Style Preferences of ESL Students. *TESOL Quarterly* 21 (1) , 87-111.

Reid, J.M. (Ed.). (1995). *Learning styles in the ESL/EFL classroom*. Boston, MA: Heinle & Heinle.

Rubin, J. (1981). Study of cognitive processes in second language learning. *Applied Linguistics* 11, 118-31.

Rubin, J. (1975). What the 'Good Language Learner' can teach us. *TESOL Quarterly*, 9 (1) , 41-51.

Takeuchi, Osamu. & Wakamoto, N. (2001). Language Learning Strategies Used by Japanese College Learners of English: A

Synthesis of Four Empirical Studies. *Language Education & Technology*, 38. 21-43.

Takeuchi, O. 竹内理 (1991). Language Learning Strategies in Second & Foreign Language Acquisition. *Bulletin of Institute for Interdisciplinary studies of Culture, Doshisha Women's College of Liberal Arts*, 8, 64-83.

Wallace, B. & Oxford, R.L. (1992). Disparity in Learning Styles and Teaching Styles in the ESL Classroom: Does This Mean War? *AMTESOL Journal*, 1: 45-68. Cited in Felder (1995).

Zhenhui, Rao. (2001). Matching Teaching Styles with Learning Styles in East Asian Contexts. *The Internet TESL Journal*.
<http://iteslj.org/Techniques/Zhenhui-TeachingStyles.html>

添付資料 1 SILL (version7.0) 質問紙 (A. 日本語訳)

資料 2 Learning Style Survey (A. 日本語訳、B. 原文)

Strategy Inventory for Language Learning (SILL)

Version 7.0 (ESL/ EFL) © R. Oxford, 1989 日本語訳責：岩崎明子

Part A:

- 1) 新しく英語で学ぶ内容を、私がすでに知っている内容と関連づけて考える。
(I think of the relationships between what I already know and new things I learn in English.)
- 2) 新しい英単語を皆一つの文中で使ってみる。そうすると覚えられる。
(I use new English words in a sentence so I can remember them.)
- 3) 新しい英単語の発音を思い出せるように日本語のイメージや絵を結びつける。
(I connect the sound of a new English word and an image or picture of the word to help me remember the word.)
- 4) 新しい英単語は、それを使う情景を心に描くことで覚えられる。
(I remember a new English word by making a mental picture of a situation in which the word might be used.)
- 5) 新しい英単語は、韻を踏んで覚える。(例：A cat sat on a rat.)
(I use rhymes to remember new English words.)
- 6) 新しい英単語を覚える為に単語板を使う。
(I use flashcards to remember new English words.)
- 7) 新しい英単語に動作をつける。(I physically act out new English words.)
- 8) クラスで習ったことをよく復習する。(I review English lessons often.)
- 9) 新しい英単語やフレーズを教科書のどのページにあったとか、黒板のどの辺にあったとか、通りのどこで見たとかを覚えておくことで覚えられる。(I remember new English words or phrases by remembering their location on the page, on the board, or on a street sign.)

Part B:

- 10) 新しい単語は、何度か繰り返して言ったり、書いたりする。
(I say or write new English words several times.)
- 11) ネーティブ・スピーカーのように話してみる。
(I try to talk like native English speakers.)
- 12) 英語の発音を練習する。(I practice the sounds of English.)
- 13) 色々違った方法で知っている英単語を使う。(I use the English words I know in different ways.)
- 14) 英語で会話を始める。(I start conversations in English.)
- 15) 英語で話される英語のテレビ番組や映画を観る。
(I watch English language TV shows spoken in English or go to movies spoken in English.)
- 16) 楽しんで洋書(英語版)を読む。(I read for pleasure in English.)
- 17) ノートやメモ、手紙やレポートを英語で書く。
(I write notes, messages, letters, or reports in English.)
- 18) 英語の文章は、まず全体的にざっと見た後、始めに戻って注意しながら読む。
(I first skim an English passage (read over the passage quickly) then go back and read carefully.)
- 19) 新しい英単語に似たことばを日本語で捜す。
(I look for words in my language that are similar to new words in English.)
- 20) 英語の形態(パターン)を見つけようとする。(I try to find patterns in English.)
- 21) 英単語をいくつかの部分に分けると意味が解る。
(I find the meaning of an English word by dividing it into parts that I understand.)
- 22) 英単語一語一語を訳そうとしない。(I try not to translate word for word.)
- 23) 英語で聞いたり、読んだりした情報を要約しておく。
(I make summaries of information that I hear and read in English.)

Part C:

- 24) 知らない単語は、推測する。(To understand unfamiliar English words, I make guesses.)
- 25) 英語で会話中にことばが出て来ない時は、身振り手振りをする。
(When I can't think of a word during a conversation in English, I use gestures.)

- 26) 英語で言いたいことばを知らない時は、ことばを作ってしまう。
(I make up new words if I do not know the right ones in English.)
- 27) いちいち新しい単語を調べなくても読める。
(I read English without looking up every new word.)
- 28) 他の人が次に英語でなんて言うか推測しようとする。
(I try to guess what the other person will say next in English.)
- 29) もしその単語を思いつかない時は、それと同じ意味の言葉やフレーズを使う。
(If I can't think of an English word, I use a word or phrase that means the same thing.)

Part D:

- 30) 語を使う為に出来るだけ多くの方法を見つけようとしている。
(I try to find as many ways as I can to use my English.)
- 31) 私は自分の間違いに気づいたら、私の英語をより良くするためにそれを利用する。
(I notice my English mistakes and use that information to help me do better.)
- 32) 誰かが英語を話している時は、注意して聴く。
(I pay attention when someone is speaking English.)
- 33) 私はどうしたらもっと良く英語を習得できるか探す努力をしている。
(I try to find out how to be a better learner of English.)
- 34) 十分英語の勉強ができるように自分の時間割を作っている。
(I plan my schedule so I will have enough time to study English.)
- 35) 私と英語で話してくれる人を探している。
(I look for people I can talk to in English.)
- 36) 私は出来るだけ英語で読む機会を求めている。
(I look for opportunities to read as much as possible in English.)
- 37) 英語の技術を磨くはっきりとした目的をもっている。
(I have clear goals for improving my English skills.)
- 38) 私は英語を学ぶにあたって上達することを考えている。
(I think about my progress in learning English.)

Part E:

- 39) 英語を使うのが怖くなる時はいつもリラックスしようとする。
(I try to relax whenever I feel afraid of using English.)
- 40) 間違うのが怖い時も英語を話そうと自分を勇気づける。
(I encourage myself to speak English even when I am afraid of making a mistake.)
- 41) 自分の英語がうまくいったときは、自分を褒めるか優遇する。
(I give myself a reward or treat when I do well in English.)
- 42) 英語を勉強したり、使ったりする時に、私が緊張したり、神経質になっていけば気づく。
(I notice if I am tense or nervous when I am studying or using English.)
- 43) 英語の日記に感想を書いている。(I write down my feelings in a language learning diary.)
- 44) 私が英語を学んでいる時にどのような気持ちかを誰かに話せる。
(I talk to someone else about how I feel when I am learning English.)

Part F:

- 45) もし英語が理解できない時は、相手にもっとゆっくり話そうに頼んだり、もう一度繰り返してもらうように頼める。
(If I do not understand something in English, I ask the other person to slow down or say it again.)
- 46) 話す時にネイティブ・スピーカーに自分の間違いを指摘してくれるように頼む。
(I ask English speakers to correct me when I talk.)
- 47) 他の学生と英語の練習をする。(I practice English with other students.)
- 48) ネイティブ・スピーカーに手伝ってくれるよう頼む。(I ask for help from English speakers.)
- 49) 英語で質問する。(I ask questions in English.)
- 50) 英語圏の文化について学ぶように努力する。(I try to learn about the culture of English speakers.)

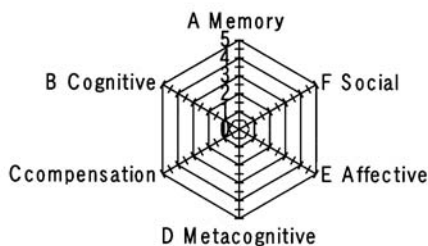
ワークシートの作業が終わったらこの説明用紙を受け取る。この用紙は、SILL の結果を示すものである。この結果は、あなたが英語学習に使用する方略（ストラテジー）の種類を示す。回答には正否は無い。

この用紙を完成するため、ワークシートで出した SILL の各パートの平均値を書き写し、総平均値も記入する。

Part	学習方略の種類	Part 毎の平均値
A	効果的に記憶する	_____
B	あらゆる知的処理を行う	_____
C	欠けた知識を補う	_____
D	学習を体系化し評価する	_____
E	感情処理を上手にする	_____
F	他者と学ぶ	_____
総合平均値		_____

結果を理解する鍵：

高い	いつも或いはほとんどいつも使う	4.5～5.0
	普通使う	3.5～4.4
中くらい	時々使う	2.5～3.4
	普通使わない	1.5～2.4
低い	全く或いはほとんど使わない	1.0～1.4



2.

私たちが学習をするとき勉強の仕方は人によって違います。目から入る情報も耳で聞く内容も学習する人たちが自分の好みやり方で学んでいきます。ある人にとっては、体験的な学習方法が役に立ちます。自分一人のほうがよいという人もグループでの学習が効果的という人もあるでしょう。このアンケートは、自分が好む学習の仕方を知るためのものです。自分の英語学習をよく振り返って質問に答えてください。なお各質問は以下のように5段階で答えてください。

例： YES! yes ? no NO

回答の選択肢の意味は次の通りです。

YES! . . . 「そう思う」または「当てはまっている」
 yes . . . 「まあそう思う」または「どちらかという当てはまる」
 ? . . . 「どちらとも言えない」
 no . . . 「あまりそう思わない」または「どちらかというと違っている」
 NO! . . . 「そうは思わない」または「違っている」

質問に答えるときは、あまり考えすぎないで直感的にこれだと思えるものに○をつけてください。また、一度回答し終えた質問を後で変更しないようにしてください。

PART 1

学生番号 _____

- | | | | | | |
|-----------------------------------|------|-----|---|----|-----|
| 1. 書くことでよく覚えられる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 2. 聴くときに、絵や数字や言葉や頭の中に思い描く。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 3. 読むときに、教科書に違った色のマーカーで印をつける。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 4. 何か課題をするときには、説明が書かれていることが必要である。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 5. 相手の話を理解するためには、話している人を見る必要がある。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 6. 話し手が黒板に書いてくれるともっとよく理解できる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 7. 表や図や地図があると話している内容が理解しやすい。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

A - Total _____

- | | | | | | |
|-------------------------------------|------|-----|---|----|-----|
| 8. 誰かと話し合うことで物事をよりよく覚えることができる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 9. 誰かが声を出して私に指示を与えてくれるのが好き。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 10. 私は音楽を聴きながら勉強するのが好き。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 11. 私は相手が見えなくても何を言っているか理解できる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 12. 私は、聞いた面白い話を簡単に覚えられる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 13. 私は相手の声を聴いただけで誰か分かる。(たとえば電話で) | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 14. テレビをつけたときに、画面を見るよりはむしろ音声を聴いている。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

B - Total _____

- | | | | | | |
|--|------|-----|---|----|-----|
| 15. 先生の話をよく聴く前に、自分で始めてしまうほうである。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 16. 勉強中に何度も休憩が必要だ。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 17. 勉強や読書中に何か食べる物が必要だ。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 18. もし、立つか座るかどちらか選べるなら、立っているほうを選ぶ。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 19. あまり長時間じっと座っていると落ち着かない。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 20. あちこち歩き回れる時、よく考えがまとまる。(例、歩くか足でリズムをとる) | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 21. 私は、講義中にペンをくるくる回したり、口にくわえたりしている。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 22. 話す時に自分の手をよく動かしている。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 23. 授業中にノートにたくさん絵を描く。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

c - Total _____**PART 2**

- | | | | | | |
|--------------------------------------|------|-----|---|----|-----|
| 1. 自分独りで勉強するよりも他の何人かと一緒にのほうがよく学習できる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 2. 自分から会話加わり、新しい人とでも気軽に親しくなれる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 3. 家庭教師と一緒によりも教室の方がよく学習できる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 4. 私は誰か知らない人とでも気軽に話せる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 5. 教室では、色々な友人と話すことでやる気が出る。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

A - Total _____

- | | | | | | |
|---------------------------------------|------|-----|---|----|-----|
| 6. 私はどちらかといえば集団よりも、一対一のゲームやスポーツが好きだ。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 7. 私が興味を持っていることはごく少ないが、それにすぐ集中できる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 8. グループ作業の後で、私は本当に疲れる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 9. 私はグループの中でどちらかといえば話を聞くか、黙っているほうである。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 10.何かを試す前に、それをよく理解してからするほうである。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

B - Total _____

Part 3

- | | | | | | |
|---------------------------------------|------|-----|---|----|-----|
| 1. 授業の準備は計画的に、早めに準備したいほうである。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 2. 自分のノート、配布されたプリント、資料などはきちんと整理されている。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 3. 勉強している外国語が何を意味しているのかをはっきり把握していきたい。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 4. どのように文法を使用し、なぜそれが必要なかを知っていたい。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

A - Total _____

- | | | | | | |
|----------------------------------|------|-----|---|----|-----|
| 5. 私は、宿題が時間通りに終わらなくてもたいして気にならない。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 6. 自宅の私の机の上は書類が積み重なっている。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 7. 授業中に全部解からなくても心配しない。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 8. 授業中、すぐに結論を出さなくてもかまわないと感じる。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

B - Total _____

Part 4

- | | | | | | |
|-------------------------------------|------|-----|---|----|-----|
| 1. 私は、長い説明よりも簡単な答えが欲しい。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 2. 私は、課題にとって重要でない細かいことにはあまり注意を払わない。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 3. 私には全体計画や全体像をおおまかに理解することはやさしい。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 4. 私は主題がわかれば、それで十分だ。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 5. 私がなにか出来事について話す時、多くの細かいことは忘れてしまう。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

A - Total _____

- | | | | | | |
|--|------|-----|---|----|-----|
| 6. 全部理解するためには、具体的な例が必要だ。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 7. 私は具体的事実や情報には注意を向ける。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 8. 私は新しい言い回しや言葉聞いてそれを瞬間的に出来る方である。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 9. 私は聴きながら空欄に文字の穴埋めをする問題が好きである。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |
| 10.私は冗談を言う時、細かいことは覚えているが、肝心の落ちを忘れてしまう。 | YES! | Yes | ? | No | NO! |

B - Total _____

アンケートへのご協力どうもありがとうございました。

**Learning Style Survey for Young Learners:
Assessing your own Learning Styles**

Andrew D. Cohen & Rebecca L. Oxford

(First draft , not yet piloted, 6. 22.01 - clip art to be added.)

Purpose:

The Learning Style Survey is designed to assess your general approach to learning. It does not predict your behavior in every instance, but it is a clear indication of your overall style preferences.

Instructions:

For each item circle the response that best matches your approach. Complete all items. When you read the statements, try to think about what you generally do when learning.

For each item, circle your immediate response:

- *** = Often or always
** = Sometimes
* = Never or rarely

(The asterisks are to be replaced by 3 or 2 smiling faces, 1 frowning face.)

Part 1: HOW I USE MY PHYSICAL SENSES

- | | |
|--|--------|
| 1. I remember something better if I write it down. | *** ** |
| 2. When I listen, I see pictures, numbers, or words in my head. | *** ** |
| 3. I highlight the text in different colors when I read. | *** ** |
| 4. I need written directions for tasks. | *** ** |
| 5. I have to look at people to understand what they say. | *** ** |
| 6. I understand talks better when they write on the board. | *** ** |
| 7. Charts, diagrams and maps help me understand what someone says. | *** ** |

A - Total

- | | |
|--|--------|
| 8. I remember things better if I discuss them with someone. | *** ** |
| 9. I like for someone to give me the instructions out loud. | *** ** |
| 10. I like to listen to music when I study. | *** ** |
| 11. I can understand what people say even when I cannot see them. | *** ** |
| 12. I easily remember jokes that I hear. | *** ** |
| 13. I can tell who a person is just by their voices (e.g., on the phone). | *** ** |
| 14. When I turn on the TV, I listen to the sound more than I watch the screen. | *** ** |

B - Total

- | | |
|--|--------|
| 15. I just start to do things, rather than paying attention to the instructions. | *** ** |
| 16. I need to take breaks a lot when I study. | *** ** |
| 17. I need to eat something when I read or study. | *** ** |
| 18. If I have a choice between sitting and standing, I'd rather stand. | *** ** |
| 19. I get nervous when I sit still too long. | *** ** |
| 20. I think better when I move around (e.g., pacing or my tapping feet). | *** ** |
| 21. I play with or bite on my pens during talks. | *** ** |
| 22. I move my hands a lot when I speak. | *** ** |

23. I draw lots of pictures in my notebook during class.

C - Total _____

Part 2: HOW I EXPOSE MYSELF TO LEARNING SITUATIONS

- I learn better when I study with others than by myself.
- I meet new people easily by jumping into the conversation.
- I learn better in the classroom than with a private tutor.
- It is easy for me to talk to strangers.
- Talking with lots of other students in class gives me energy.

A - Total _____

- I prefer individual or one-on-one games and activities.
- I only have a few interests, and I really concentrate on them.
- After working in a large group, I am really tired.
- When I am in a large group, I tend to keep silent and just listen.
- Before I try something, I want to understand it real well.

B - Total _____

Part 3: HOW I DEAL WITH TASKS

- I like to plan language study sessions carefully and do lessons on time or early.
- My class notes, handouts, and other materials are carefully organized.
- I like to be certain about what things mean in the target language.
- I like to know how to use grammar rules and why I need to use them.

A - Total _____

- I don't care too much about finishing assignments on time.
- I have many piles of papers on my desk at home.
- I don't worry about understanding everything in class.
- I don't feel the need to come to quick conclusions in class.

B - Total _____

Part 4: HOW I RECEIVE INFORMATION

- I prefer short and simple answers rather than long explanations.
- I don't pay attention to details if they don't seem important to the task.
- It is easy for me to see the overall plan or big picture.
- I get the main idea, and that's enough for me.
- When I tell a story, I forget lots of details.

A - Total _____

- I need specific examples in order to understand fully.
- I pay attention to specific facts or information.
- I'm good at catching new phrases or words when I hear them.
- I enjoy activities where I have to fill in the blank with missing words I hear.
- When I tell a joke, I remember the details, but forget the punch line.

B - Total _____

Understanding your Totals

Once you have totaled your points, write the results on the blanks below. Circle the higher number in each part. If they are close, circle both and read about your learning styles on the next page.

Part 1:

- A _____ Visual
 B _____ Auditory
 C _____ Tactile/Kinesthetic

Part 2:

- A _____ Extroverted
 B _____ Introverted

Part 3:

- A _____ Closure-Oriented
 B _____ Open

Part 4:

- A _____ Global
 B _____ Particular

Part 1: HOW I USE MY PHYSICAL SENSES

If you are a **visual** person, you rely more on the sense of sight, and you learn best through visual means (books, video, charts, pictures). If you are an **auditory** person, you prefer listening and speaking activities (discussions, debates, audio tapes, role-plays, lectures). If you are a **tactile/kinesthetic** person, you benefit from doing projects, working with objects, and moving around the room (games, building models, conducting experiments).

Part 2: HOW I EXPOSE MYSELF TO LEARNING SITUATIONS

If you are **extroverted**, you enjoy a wide range of social, interactive learning tasks (games, conversations, discussions, debates, role-plays, simulations). If you are **introverted**, you like to do more independent work (studying or reading by yourself or learning with the computer) or enjoy working with one other person you know well.

Part 3: HOW I APPROACH TASKS

If you like **closure** or to finish up or get things clear, you focus carefully on all learning tasks, meet deadlines, plan ahead for assignments, and want explicit directions. If you are more open, you enjoy learning by discovery (where you pick up information naturally) and prefer to relax and enjoy your learning without concern for deadlines or rules.

Part 4: HOW I RECEIVE INFORMATION

If you are a **global** person, you enjoy getting the main idea, and are comfortable talking to others even if you don't know all the words or concepts. If you are a **particular** person, you focus more on details, and remember specific information about a topic well.